

第5回県政ひざづめ談議結果概要

○開催日時:平成21年6月15日 16:30～

○開催場所:四季の杜 おしの公園

〔司会〕

それでは、ただいまから『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。

本日の進行を務めます広聴広報課長の堀内です。よろしくお願いいたします。

始めに横内知事からあいさつをいたします。

〔知事〕

皆様こんにちは。横内でございます。

今日は皆さん、それぞれお忙しいところをごうしてお集まりをいただきまして、本当にありがとうございました。『県政ひざづめ談議』ということで、日頃皆さんがお考えのことを、もう肩肘はらずにざっくばらんに何でもお話をいただきたいというふうに思います。

そういう皆さんの生のお声というものが、我々が県の行政を進めていく上でも大変に役立つものですから、是非ざっくばらんなご意見をお聞かせをいただければありがたいと思っております。

今日は、忍野八海を中心にガイドを、お客さんのガイドをしていただいているボランティアの皆さん方と同時に、この地域で旅館業を営んでいる皆さん方にお集まりをいただいたということであります。忍野も、忍野八海をはじめとして、色々な観光スポットがあるわけでありましたが、特にこの忍野八海というのは富士山を世界遺産にする上でも、大変に重要な拠点でありますし、私も拝見をしております。もっともっと周辺の環境整備等を行えば素晴らしいものになるなという感じを持っております。

それからこの地域で言えば、桂川とか、あるいは新名庄川とか、そういう上流の河川というものもまた大変に清流の素晴らしいものでありまして、こういう観光施設というものをもっと磨きをかけていきたいもんだというふうに思っているところであります。

そういう意味で、まだまだいろんな可能性のある忍野村でございまして、この地域の観光に携わっておられる皆さん方のご意見を聞きながら、村の皆さんと一緒に観光振興のために努力をしていきたいというふうに思っておりますので、今日はどうぞよろしくお願いいたします。

まあ繰り返しになりますが、何でも普段お考えになっていること、まあ県への注文、ざっくばらんにお話をいただければありがたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。今日はどうもありがとうございました。

〔司会〕

それでは、ここで本日出席をしております県と忍野村の担当者をご紹介します。

まず、地域資源を活用した観光ですとか、山梨ブランドのPRなどに取り組んでいます八巻観光企画・ブランド推進課長です。

続きまして、大型観光キャンペーンや都市農村交流の推進などを担当しています小林観光振興課長です。

続きまして、忍野村の天野地域振興課長です。

それでは意見交換に入らせていただきます。

本日は皆様方と知事で地域資源を活かした忍野の観光振興の方策などについて忌憚のない議論を重ねたいというふうに考えております。対話時間はおおむね1時間を予定しております。ご協力をよろしく願いいたします。

それでは始めますので、よろしくお願いいたします。

〔参加者〕

私はふるさと案内人を務めています。本村の観光資源は雄大な霊峰富士山の眺望と、この富士山の伏流水に水流の発する湧水池が幾つか残りましたが、その代表的な湧水池の忍野八海だと思っております。この八海の案内の会を発足してから4年目になりますが、お客さんには、あっこんな所もあったんですか、あんな所もあったんですかと非常に喜んでいただいております。ただ、富士山の文化遺産登録の関係で、何か忍野はちょっと遅れて取り残されるじゃないかというふうなことも聞きましたが、これは行政のほうでも多分力を入れていると思いますので、私どももがんばりますので、私どもとしては良い形で、そして子々孫々にこの忍野八海を残していきたいと、こんなふうに思っておりますのでよろしくお願いいたします。

それからせっかく知事さんが見えるということで、何点かお願いをしたいと思います。

第一番目は、先ほど知事さんからもお話がありましたように、村の中央を流れる新名庄川の整備の件であります。現在人家のある所ですね、特にお宮橋からモヘイ橋までの道ですが、幅員が3メートルと4メートルの所もあり、大体500メートルぐらいの道だと思います。これは忍野八海へ訪れるお客さんの散策道にもなっています。それから老人クラブが桜の木を植えて、4月の25日頃、今年は10日ぐらい早かったんですが、桜並木でライトアップをしたりして、非常にいい景色にもなっております。しかし、この河川の管理道路は車も通ったりして、雨が降るともうデコボコ道でどこを歩いていいか分からないような状態で、お客さんがやっと通っているといいますか、避けながら通っているというふうなことでありますので、知事さんの力をお借りして、整備などしてもらいたいと思います。例えば石畳とか、何か道路の表面だけでもいいから舗装をなどをしていただけないだろうかということと、もう一つは河川の河川沿いに自動販売機があったり、それから非常に何か汚い所もあるわけです。是非この辺は、私もちょっと話をしたこともあるんですが、何か自社既得権があるんだというふうな勘違いをしている人がいますので、これは是非県の管理を徹底して、この辺を整備をしていただけないだろうか。

次に、私たちは桂川の清掃をしたり、缶ガラ拾いをしたりしているんですが、非常に深い所があったり、それから樹木が倒れたりして、そこへいろんなものが引っ掛かったりして、ちょっと一般人にはできないような状態の所がありますので、その辺を是非お願いしたいとい。

もう一つは、モヘイ橋の下のほうにつり橋があったんです。昔はそこから撮ったパンフレットなんかもありましたけど、今なくなっちゃったんですが、まあできれば復元していただけないかなと、こんなふうなことであります。

それからこの施設のすぐ先のほうに、金田一橋という個人で架けた橋のようですが・・

〔知事〕

金田一橋。ほ一。

〔参加者〕

今通れないような状況です。この付近にも観光資源もありますので、また、南のほうに渡る所でもありますので、是非これも整備を考えてもらいたいと思います。

それから富士山の眺望の関係でございますが、私も趣味で写真を撮っています。知事さんが記者会見する時の後ろの富士山の写真は、県の大森さんが撮った写真ではないかと思っております。今非常に雑木が増えたり、大きくなっちゃって、富士山が眺望できない。忍野には、多くのカメラマンが見えますので、その辺の雑木とか、木を切っていただきたいと、こんなふうに思っております。

それから、忍野からの富士山の眺望は素晴らしいですけど、電線も邪魔をしている。これは忍野だけでなく富士五湖全体のことだと思っておりますが、この辺も知事さんのお力でも借りないと到底できないと思いますので、是非対策をお願いしたいと思います。

非常に長くなりましたが、私たちもこの忍野村の自然を大事にして、地域の活性化にがんばっていきたく思いますので、よろしくをお願いしたいと思います。

〔知事〕

いや、ありがとうございました。

まあ忍野八海をはじめとする、この忍野村の景観というものを保全をして子孫に残していきたいというお話で、大変に心強いことだと思っております。

我々としてもできることは是非やりたいと思うんですけども、この管理道路とか、この辺は県が管理しているんでしょうかね。村じゃないでしょうね。

〔参加者〕

県だと思います。

〔知事〕

県の管理ね。なるほど。

〔参加者〕

そして村のほうも何かちょっと計画があったような話も聞きましたけど・・・。

〔知事〕

新名庄川は県の管理ですよ、だから清掃もね。それから、この雑木を切るというのは、これはどういうような所なんですか。やっぱり県有地になっているんですか、そこは。

〔参加者〕

話を聞くと、東電の所有地だったんですけどね、県のほうで買収というか、今県の所有になっているような話も聞きましたけどね。そして昨年ですね、雑木を4本、4株切ってもらったんです。モヘイ橋の下のほうで、富士山の稜線に掛かると写真にならないというふうなことで・・・。あの辺は、忍野村でも写真撮影の良い場所にもなっておりますので、是非お願いしたいと思います。

〔知事〕

なるほどね。電線の地中化もその通りでして、私が知事になってから電線の地中化を全県的に進めようということで一生懸命やっているんですが、東電とかNTTとの協議をしなければいけないわけですから手間は掛かるんですけど、まあこれは是非進めていかなきゃいかんと。特にこの富士五湖地域を重点的にやっていこうとしているんですけどね。これはもう着実に進めていかなければいけないと思っていますね。おっしゃるとおりだと思うんですね。いいカメラのスポットがあっても電線が走っているものだからだめだとか、そういうのがよくありますよね。これは本当に問題だと思いますね。今のような話は、本当は村のほうをまとめて、その新名庄川のそういう景観整備、あるいは清掃。それから新名庄川のそういう橋だとか、あるいは管理用道路の整備、そういうふうな皆さんの意見をまとめて、それで県に持って来てくれるとありがたいですよ。それやってくれますかね、村のほうで。

〔天野重光地域振興課長〕

はい、分かりました。

〔知事〕

とりあえず、その新名庄川ですね、それから桂川、これの上流のそういう管理用道路、あるいは河川の清掃、まあその他整備ですよ。地元の皆さんの意見をまとめていただくといいと思うんですね。それを是非よろしく願いいたしますね。

これは建設事務所の吉田支所か……。吉田の支所長にはよく言うておきますから、これは是非まとめて要望書として出していただければありがたいと思いますね。観光組合、観光協会でもいいですよ。

ほかにいかがでございましょうか。はい、どうぞ。

〔参加者〕

私は要望じゃなくて、忍野村の素晴らしさをPRをさせていただきます。

私は他県から忍野村に住んで、約もう50年になります。そして忍野の人というのは本当に人情味豊か、今ちょっと擦れて来てきましたがね。そして富士山をバックに資源に恵まれ、また景観の良い自然豊かな高原の村で、生き生きと生活をさせてもらっています。

忍野は、年間約80万人のお客さんを忍野八海に迎えております。でもですね、ほとんどがホテルのチェックイン前の時間調整で立ち寄る人なんです。忍野にも民宿、旅館がたくさんあるので、何とか泊まってもらって。それでまた中高年のハイキング、ウォーキング、今たくさん来ていますので、そういう人たちにも忍野に宿泊してもらいたいと、常々ガイドしながら思っております。そして、今でもやっているそば打ち体験や都会から来る農業体験を大いにPRしてもらって、村に何とか滞在してもらえればいいなと。そうすれば村の活性化に繋がるんじゃないかと思っております。

〔知事〕

忍野八海が一番メインになっているあの広い池、まああれは人口池なんだそうですけれども、あれだけじゃちょっともったいないですよ。本当のこの八海を見てもらえば。しかし八海は私も見ましたけど、もうちょっと周りの環境整備をしたほうがいいですね。

〔参加者〕

ツアーのお客さんは忍野八海、一部その湧池ですか、メインの、それを見てきびすを返して帰っていく、帰るお客さんが多い。私たちが案内をしていると、あっこんなにも素晴らしい池がほかにもあったんだと、非常に喜ばれております。また家族を連れて今度は来ましようと、そういうお客さんもおります。そして今では国内ばかりではなくて、外国から、特にヨーロッパ、アメリカ、一番多いのは東南アジアですね。非常に多いです。そういう人たちに民宿に泊まってもらって、日本の文化を見てもらえばいいなと常日頃思っております。

〔知事〕

民宿の皆さんというのは、例えばホームページだとか、そういうものを通じてPRみたいなことはやっているんでしょうかね。

〔参加者〕

やっている家と、まだやっていない家があると思いますね。きっと半分ぐらいやっているじゃないですかね。

〔知事〕

滞在型の観光にもっていかなきゃもったいないですよ、本当に。

〔参加者〕

やっぱりそういう滞在型にするには地域のブランド品とか、地域ブランドをもう少し考えて、何か、例えば吉田のうどんなんかもう知名度が高いですよ。それと忍野は、やっぱりこれだという、何かみんなで考えていけたらいいなと思います。

それと、川沿いに桜の咲く頃はとってもきれいなんですよ。静岡県の河津桜があれだけ有名になったのもメディアの力だと思うんですよ。だから県でも一度桜の咲く頃来ていただいて、県の広報にも忍野の桜はライトアップしてきれいですよということを外にアピールしていただきたいと思います。

〔知事〕

なるほど、そうですね。桂川ですか、それとも新名庄川…

〔参加者〕

新名庄川です。私は富山からお嫁に来ていますが、富士山を見た時に感激しちゃって手を合わせて、もうやっぱりこの富士山というのは何て素晴らしいんだろうと思いました、最初見た時に。

〔知事〕

最近温暖化で温かくなってきましたから、本当に冬も過ごしやすくていいですよ。

〔参加者〕

だからやっぱりこの富士山のお陰で私たちも商売させていただいているので、何とかこの…

〔知事〕

奥さんのところは、料理なんかで特色があるんじゃないんですか。

〔参加者〕

私たちはやっぱり山菜料理とか川魚料理とか、季節料理を主に、やっぱり資源が豊富にありますので、このようなお団子とか…

〔知事〕

これね、よもぎ饅頭ですね。

〔参加者〕

はい。高価なステーキやお刺身なんかを山の中で出すよりも、地元で採れた食材をなるべくお出ししています。

〔知事〕

そうですね。地域のブランド食品を今から作るというのも大変で、これもなかなか、本物のよもぎ餅ですね、よもぎ饅頭だな、これは…。

それぞれの民宿の皆さんが腕を競った料理でね、山菜料理か何かの本当に珍しくて、いいものを提供なさるようにすればね。山菜民宿の村とか、何とかなって、知名度が高まればいいですけどね。

〔参加者〕

忍野で採れたよもぎなどを使って、修学旅行生に十数年体験学習をしています。子どもさんが、「おばちゃん、こんな草で作ったものがおいしいって信じられない」と言って、すごく喜んでます。だからこれを忍野の名産にして、是非売りたいと思います。

〔知事〕

修学旅行生がね。関西が多いようですよ、修学旅行生は。

〔参加者〕

そうですね。名古屋方面からいらっしゃる生徒がね…。よもぎ饅頭すごく人気ですよ。

〔知事〕

人気ですか。余り関西じゃ、これ食べないんですかね…。

ほかに奥さん方、何かそれぞれのお店で特色のあるものを出しておられるんですか。何か自慢のものは何か…。

〔参加者〕

そうですね。なかなか特産物を作るというのは難しいと思います。ただ、どこに行ってもきつとこの草餅ってあると思うんですけれども、子どもたちに教えてあげて、みんなで一緒に作るという、多分自分で作った物って絶対おいしいですよ。どんな形だっておいしいと思うんですよ。今、食の安

全とか、すごく言われている時なので、うちなんかは昼間来た小学生とかの体験学習は、一緒によもぎ摘みからするんですけど、自分ちのすぐそばで摘んだよもぎで、一緒に餅を作ったりする。自分たちで作ったものなので、もうとっても感動して喜んで食べていますね。今、汚染米だとか、いろんな食の安全が危ぶまれている時代なので、そういうところを売りにしても、どこにでもあるものかもしれないんですけど、そういうところがやっぱり楽しめるのかなと思うんですけども。

〔知事〕

確かにね。やっぱり修学旅行か何かで来るんですか、奥さんのところにも。

〔参加者〕

そうですね。宿泊する修学旅行生が来た時は、夜団子を作るんですけど、それも、まあ夜だからよもぎは摘みに行けないんですけど、作ります。そして男の子なんかは、やっぱり中学生の男の子じゃ、あんこ嫌いとか言う子が多いんですけど、実際作ってみると食べたりとか、あとは昼間はここ杉並区の寮があるので、そこの林間学校に来た小学生たちが各民宿に分かれてほうとう体験をしたり、よもぎ団子づくりをしたり、そば打ちをしたりするんですけど…。

〔知事〕

そういう体験学習というのは大事なことですよね、本当にね。

〔参加者〕

そうですね。今、修学旅行も体験学習を取り入れた修学旅行が多いので、どこも。

〔参加者〕

去年から東京都民を対象に、親子で体験宿泊というのを始めたんですよ。

〔知事〕

それは観光協会がやったんですか、村がやったんですか。

〔参加者〕

村です。それで色々と川遊びとか、もろこし狩りとか、色々、夏休みに、今年は何か聞いたら田植にも来ているそうです。だからそういうのを、東京だけじゃなくて神奈川とか、この近県に広めて何とかね…。でも割と観光に従事していない人がちょっとね、無関心という人が多いんですよ、まだこの辺の人はね。ですから、風が吹けば桶屋が儲かるじゃないけど、そういう体験学習なんかやった時にも色々協力してもらったり、何かするようなことになっていけばいいなと思っています。

〔知事〕

確かにね。まあ、体験学習のようなことは、PRをすればなんぼでもお客さん来ますからね。

〔参加者〕E

私も忍野村に生まれて60年、旅館の娘から民宿へ嫁いで、そしてお客さんから「富士山は日本一だな」という声を聞きますが、知事さんもこの忍野村からの富士山をどう思いますか。

〔知事〕

まあこれは素晴らしいですよ。形がいいですね。

〔参加者〕

ありがとうございます。それで、そこにあるのはヒイチーといいます。中にはもみ殻が入っています。これは玄関に入る前に飾ります。民宿に泊まりに来た人たち、それから旅館に泊まりに来た人たちに、これをアピールして、お団子、それから体験学習でこれも…。

〔知事〕

それは何に使うんですか。

〔参加者〕

小さいですがこれもヒイチーです。これは富士山にちなんで子どもさんたちが作ったものです。日本一の富士山と忍野村は、本当にこれという事故も何も、台風が来ようが大雨が降ろうが何もありません。なので私たちはこれを道祖神様と言います。大きな竹を御殿場のほうへ刈りに行きまして、その竹を、色紙と色テープでそれこそ立派に飾ります。これは男の子だけのお祭りなんですが、各組の役員さんが子どもたちにお手伝いをして、飾りつけをしまして、そしてきれいに飾ったところに12日から15日まで私たちが、あっ去年も健康でいられた、幸せだったということをお願いして、このヒイチーを飾りにいったり、お酒をあげたりしています。

〔知事〕

これは珍しいですね。道祖神祭りというのは15日でしたっけね。

〔参加者〕

12日から。どんど焼きと同じで12日から15日まで…

〔知事〕

どんど焼きと一緒にやるんですね。

〔参加者〕

ヒイチーというのは「火打ち石」から来ていると。だから軒先に飾るという感じですよ。

〔参加者〕

小さいのは自分の好きな所に飾って…

〔参加者〕

これ富士吉田からも買いに来たりするんです。

〔参加者〕

商売している人は、もうこれが欲しくて待っているんです。

〔知事〕

これは毎年同じ物を子どもたちは作るわけですか。

〔参加者〕

それぞれの家庭で、その道祖神のお祭りに奉納するわけです。

〔参加者〕

そして1年経つとこれは燃やしちゃうんです。

〔知事〕

これ燃しちゃうんですか。もったいないですね、こんな立派なものを。そして毎年買うわけですか。

〔参加者〕

1年間は限界かな、無病息災、魔よけとして。

〔参加者〕

必ずお客様は聞きますね、これ「何ですか」って。

〔参加者〕

これもアピールしてもらおうといいですね。

〔参加者〕

これも土産にしたいなと思って、忍野民宿組合のほうで進めています。どうぞよろしく願いいたします。

〔参加者〕

こんな大きいやつはちょっと、このぐらいのをお土産に、そして無病息災で玄関に飾っておきましようという、通りすがった観光客で買っていく方もいます。

〔知事〕

そうですね、珍しいものですね。ほかには、いかがですか。

〔参加者〕

平成14年に他県から忍野村に来ました。

案内人をして今年4年目に入っておりますけども、その間色々と感じることもありまして、特に今日は県のほうに要望ということではないんですが、忍野村の観光、あるいは私たちのガイドの方向性と言いましょか、それについてちょっと述べたいなと思っております。

実は最近思っているのは、観光客の目というものが、ただ単にその土地の資源というか、観光資源を訪れて見るとかというのではなくて、むしろもっと知りたいとか、もっと体験したいとか、もっと感動したいとかというような考え方、おそらくエコツーリズムに沿った体験型観光客の目であろうかと思って来ているんです。それでガイドをやらさせていただいている中でも、忍野村に来られる観光客の目もそういう方向にもあるのかなというふうな感じ方をしております。ちょっと振り返ってみますと忍野村には大変歴史・文化・自然の数多くの宝物があるわけですね。それは間違いなく、今言う着地型観光客の目に、あるいは満足に合致するものだろうと私は思っているんです。今私がやっている案内については、基本的には忍野八海のコースが主であるんですね。だけでも観光客はもっともって忍野村の素晴らしさを知りたいという目があるかと思うんです。そういう意味において、忍野村のこの素晴らしい観光資源あるいは地域資源と言うんでしょうか、この宝物を再度確認をしていく必要があるんじゃないかと思っております。その上で、私たちがやっている案内も、それに沿った活動にしていってもいいのかなという思いがずっとしておりまして、何とかそれができないかなと。ただ、この観光資源の再確認というのは多岐に渡っているものですから、個々にあたって時間を掛けないといけないかと思うんですが、その中でどういう方法が、その確認をするところの方法と言いましょか、何かお知恵をいただきましたらと思っております。そういうことをやることによって、私たちのガイドをもっとこれから拡充をすれば、忍野村の観光振興に大きな役割を果たせるんじゃないかなというような感じがしております。

〔知事〕

そうですね。まあ本当に旅行も観光というの、そういった本当に体験型の観光、それから着地型観光などといって、その地域地域の新しい観光資源みたいなものを開発をして、地域から発信をしていくということが大事になりましたですね。まあ、よそから来られた方というのは、この地域を客観的に見るができるわけですから、この地域の良さというのは長年この地域に住んでいる人よりもよく分かるだろうと思うんですよね。是非そういう意味で期待をしているんですけども。JTBという大きい旅行会社がありますね。あそこの社長さんが言っていましたけれども、JTBでは、田舎の方々に「あんた方、毎日暇の時は何をして楽しんでいるんですか」と聞くんだそうですね。田舎の人たちが楽しんでいることというのは、都会の人のところに持ってくれば一級品なんだそうですね。非常に楽しいものだそうですね。そういうものを発見をして、そういうものを観光のルートに組んだりというようなことをJTBはやっているようですけどもね。皆さんが日常気が付かないかもしれないけどやっておられることというのが、そういう都会の人にとってみれば意外に大きな魅力だったりするということはよくあることだと思いますよね。

〔参加者〕

忍野村をもう少しよく歩けば、もっと気を付けて見れば、本当に数多くの資源があるんです。元々あるんです。それをもっと顕在化して..

〔知事〕

例えば多分幾つもそういうものを持っておられるんですが、具体的にどのようなものがありますか。

〔参加者〕

代表的には忍野村の富士山という言い方はおかしいんですが、忍野村にもそういった富士山に関する事、火山に関する事、それを体験と言いましょか、そういう場所に案内もできますし、あるいは小富士火山の火山灰が堆積するような孤島のような場所もありますし、また先ほどらい出ている新名庄川が、環境にいい川づくりで第2番になったものですから・・、そんなことがあります。また、民俗的な伝統文化もありますし、それから忍野村は、9、200年ぐらい前の歴史にさかのぼるような縄文時代の遺跡もあるような場所なんです。そういうことを誇りに持って観光にあたればいいなとつくづく思います。

〔知事〕

そうですね。ファナックの稲葉清右衛門さんが、何でここに工場をもって来たんですかとある人に聞かれたら、風水でここは非常に土地がいいんだということを書いてたと・・・。本当かどうか知りませんがある人が書いていましたけども。そういうところはあるんでしょうね、きっとね。

〔参加者〕

湧水に関しては、忍野八海も特に代表的になるんですけども、忍野村全体の中にも数多くの、それこそ20、30近い、小さなものを含めれば湧水の場所が記録されているんですね。それだけ豊富な水ということについて、もう少しそういう観点で何かできないかなと思うんですね。

〔知事〕

その忍野八海以外にも湧水池というのはたくさんあるんですか。

〔参加者〕

あります。

〔知事〕

何か桂川の上流にあるそうですね。

〔参加者〕

しぶきがあふれている所がありますね、何カ所か。そこが・・

〔参加者〕

桂川と新名庄川が合流した地点から富士山寄りのほうですね。南東のほうへ上がったところですよ。何カ所か出ています。

〔参加者〕

そこもすごいすてきですね。八海も行くけども、そこもすてきです。みんなが目には触れないような

所なんです。

〔知事〕

例えば尾瀬みたいに、そういうものを保全しながら木道みたいなものを作ってね、そういうところに見に行けるようにしたりするといいですね。やっぱり旅行者が見て楽しいと思うようなスポットみたいなものを是非たくさん発掘をして、それを案内をしてやってもらいたいと思いますね。そういうのは意外に受けるだろうと思いますよね。

〔小林観光振興課長〕

甲府城案内つかまつり隊という、やっぱり観光ガイドをする、甲府城を案内するガイド隊がありまして、それが今度甲府駅北口のほうの武田関係の史跡をJRと組んで案内するようなことを今年度から始めましたので、そういったものが参考になるのではないかなと思います。甲府駅までお客さんが来て、そこから引き受けて案内をして..

〔知事〕

そうやって案内をするということが大事なんですけども、やっぱりそのスポットスポットはある程度の整備ができていないとね。ある程度のね。景観的なものとか、そこに何かストーリー性があったり、それから何かでっかい看板がドカンとあったりとか、そういうものは取ってもらおうとか、そんなに金掛けなくてもいいんですけど、ちょっとした手を加えていかないと観光客にしてみれば幻滅することがありますよね。

〔参加者〕

私は東京から嫁いだんですけど忍野に。最初、結婚する前に主人が今住んでいる家のすぐそばの川に夜連れていってくれたらホテルがいっぱいだったんですよ。別にそれにくらっときて結婚したわけじゃないんですけど...。(笑) すごくきれいで、東京から来た私はもうびっくりしてしまっ..

〔知事〕

今でもホテルはいるんですか。

〔参加者〕

いやそれが、私が嫁いでもう何年もしない間にまったくいなくなっちゃって、ほかに忍野でも何か所かいる場所があるんですけど、身近にはいなくなっちゃったんですね。

〔知事〕

ホテルが復活した所がずいぶんたくさんありますものね。

〔参加者〕

そうですね。東京辺りでも結構ホテルを見る会とかって今すごいあるんです。そしてすごく殺到しているんですよ。今日は人員制限で入れないというほどの人が出ちゃうぐらいなので...。

今、嫁不足も結構忍野村では深刻な問題で、だからまた水とか、そういうものをきれいにして、ホ

タルとかが復活すれば観光も兼ねて、一泊二日のホテルを見ながらお知り合いするツアーとか、そういうのも企画したらおもしろいんじゃないかなと思うんですけど。私毎日何て自分はいい所に住んでいるんだろうと思っているんですけど、ただ元々の地元の方たちがそういうありがたみが薄いような気がするんです。

〔知事〕

まあ、地元の方はそういうところはありますよね。

〔参加者〕

よそから来ると強くそれを感じるんですけど…。

〔参加者〕

うまいものを毎日食べていると、うまいと感じられなくなる…。

〔知事〕

本当にその通りだね。

〔参加者〕

私は地元で生まれて、地元で現在までずっと暮らしておりますけど、皆さんと同じように忍野が好きですし、これからよそに行って住みたい所ありませんし、ここはいい所だなというふうに思っています。やっぱり住んでいる住人が住みたいというものを作っていかないと、来る人もやっぱり少なくなるかなというふうに思うんですね。個々にできることもありますけど、やっぱり村と協力しながら、どうしたらここがこうできるかということ、もう少しみんなでやっていったほうがいいのかなと思います。この自然を活かしながら。よくお友達なんか甲府のほうから訪ねてきますと、忍野は正に原風景だねというふうにいつも言ってくれるんですね。自分はまだそこまで感じないです。長い間住んでいますから、田舎で住みやすい村というふうな捉え方ですけども、よそに行ったのと違うようなものを感じるって。だからそれがどういうものなのかということ、もう少し私たちもこういう協会なり民宿組合なりで、こういうことを機会に話し合っていくともう少し忍野が観光という面でも違う部分が見えてくるのかなと思います。八海は、今どこにでも知られている観光地ですが、それ以外に28カ所わき出ている鷹丸尾湧水群という…

〔知事〕

鷹丸尾湧水群…

〔参加者〕

正式名称じゃないかもしれないんですが、俗称ですが、本当に少しずつ湧き出ているんです。本当にとってもいい出方ですので、そんなのもうちよっと自分たちも含めて整理する方向性を、それがどこまでできて、どうすればできるのかというようなことを…。

それとつい最近ですけど、NPO法人が、忍野と吉田の一部にしかいない絶滅危惧種のホトケドジョウの保護に取り組んでいます。ボランティアの方たちも忍野村だけじゃなくてよそからもいらして

くださって、ヨシが生えて、もう本当にうまく掘れないようなのを皆さんの力でやっていただきました。昨日それに係わっている人が家へみえて200匹ぐらいホトケドジョウの子どもが生息するようになったと言っていました。ただ、下水の整備とかがまだ忍野は整っていない部分があるので、生活雑排水も入るところがあるから藻が発生してしまって…。

生息するにはもうちょっと整備しなくちゃいけないのかなというふうなことも話していたので、その辺は私たち、村の村民の有志だけでできることと、それから県なんかの力をお借りして整備して、魚水族館ですか、あそこの学芸員の方なんかも来て一緒に確認して下さったそうです。だからそういうことも含めながら、自分たちがどこまでどうしてできて、これはどこの手を借りなきゃいけないかということを考えていきたいなというのが、まあ今回のこういう知事さんとのひざづめ談議をすることによってちょっと私自身が感じたことです。

〔知事〕

案内をしていただいているボランティアの皆さんが中心になって、是非一般の住民の皆さんも巻き込んでね、そうやっていいものを是非残したいですね。そういう活動を広げていってほしいですね、少しずつね。一人でも二人でも熱心な人がいれば、例えばホテルだってあっちこっち今復元していますけど、大体一人か二人なんですよ、熱心な人はね。そういう人が一生懸命やっていると段々回りに広がってきたりね。ホテルなんていうのは今水もきれいになっているからずいぶん復元するんですね。

〔参加者〕

農薬でだめになっちゃったんですか。

〔知事〕

農薬でしょうね。やっぱり下水道ですよ。

〔参加者〕

ドジョウでも蟹でも、みんな農薬が強過ぎて…

〔参加者〕

今、花がいっぱい咲いている時期なんですけど、蜂と蝶々を余り見なくなっちゃったんですよ。蜂と蝶々がいらないねという…。

〔知事〕

蜜蜂が少なくなったと言いますが、何かあるんでしょうかね。

〔参加者〕

蝶々も飛んでいないですね。

〔知事〕

特別強い農薬を使っているんですかね。

〔参加者〕

でも、今はどの家でも手で草をとっています。

〔知事〕

そうですね、そうですね。まだまだ大丈夫だと思いますね。下水道はやっぱり整備したほうがいいですね。合併浄化槽でもいいんですけどもね。これは早いところやっておいたほうがいいですね。

〔参加者〕

是非下水道をしてもらいたいです。うちのほうはまだ通ってないんですよ。

〔知事〕

支援制度はあるんですよ、国にも県にもね。ただやっぱり村がやらないといかんですね、事業としては。

〔参加者〕

是非お願いします。

〔知事〕

忍野は、本当にいい所で、一昨日もおじいさんがこの村の出身だという、そしてまだ自分の実家が残っているという人がいて、これは通産省という、今経済産業省という役所の非常に偉くなった人で、今関西のほうに行って関西のある会社の社長をやっていますけども、長田さんという人ですけど。そして、もう私は山梨に帰るんですよと言うんですよ、忍野に帰るんだって。忍野で何をやるんですかと言ったら、何もやらないと。もうそこで引退するんだと。そして悠々自適の生活を送るんだと。

〔参加者〕

うちの近くですよ。

〔知事〕

そうですね。まだ小さい家が残っていると言っていましたけどね。

〔参加者〕

でも最近近代的な家を建てました。

〔知事〕

家を建てたんですか。いよいよ本格的に住むためにね。

〔参加者〕

うちの本当にすぐそばで、優秀なおじさんという・・・

[知事]

優秀なおじさんね…。(笑)

[参加者]

村では名が通っています。

[知事]

名が通っているんですか、そうですか。(笑)

ほかにいかがですか。どうぞ。

[参加者]

ここは見てのとおり電車がなく、車やバスでないと来ることができません。バスで来る人は運転手さんがそのまま連れてきてくれるんですけど、車の人は、中央道を利用したり東名を利用したりして来んです。例えば、中央道を下りてどっちへ行けば忍野なのかの矢印や表示がない。忍野も観光とですので、標識などに忍野八海という名前を入れてもらいたいです。また、忍野八海に行くには、国道に入り口が4つないし5つありますが、そういうところにも名前を入れてもらいたいです。

その他に、雑木林で看板なんかも見づらくなっていますので、そういう所も整備をしてもらいたいと思います。

何しろお客さんが来てもらうには、みんな乗用車で来なければならないので、その都度その都度案内をして、どこを行けば忍野ですかというのではなく、ぱっと見ても分かるような、我々も実際国中に行っても分からない所がいっぱいありますけど、標識があれば、あっここを行けば行けるんだなということが分かります。

[知事]

138号には、だけどずいぶん標識があるじゃありませんか。

[参加者]

忍野というのはいないんですね。

[知事]

そうですかね。忍野入り口という看板はあるけど…。

[参加者]

できましたら山中湖の下でも結構ですので、忍野八海というような格好で入れてもらうようにすれば、忍野も少しは…。

[知事]

まあ138号は国の管理ですから、まあこういう標識というのは、どれだけ地元がしつこく言うかなんですよね。この標識にちゃんと忍野という名前を入れてくださいよとか、そういうことを言わな

きゃだめです。

〔参加者〕

村で要望するんですか。

〔知事〕

やっぱり国道ですからね。国がやるしかないわけですよ。その国に頼むしかないわけですよ。具体の場所があるでしょう。どこか、例えばこの辺とかね。ということになると、やっぱり村が言うしかないですよ。あるいは地域の住民の皆さんの集まり、団体、観光協会みたいなところとか。

〔小林観光振興課長〕

出張所は吉田にあります。あそこは維持管理だけで、甲府市緑が丘に本所があります。

〔知事〕

維持管理のところでいいんじゃないかと思いますが、とにかく言うことですよ、しつこくね。やっぱり観光客の目で見たとどうかということを書いてやらなきゃだめなんですよ。まあ県も言っておきますけども、しかし具体の、どこの場所にどうするかというのは、それは地元の人でなければ分からないから。

〔参加者〕

国道沿いへ、まあバスで来る人はいいけど、自家用車で来る人が、例えば山中方面にしても富士吉田方面、あるいは中央道を出ても、忍野八海にどう行ったらいいか分からないから、国道沿いにできれば忍野八海とか忍野を入れて、矢印を入れてもらえればお客さんが分かり、そして忍野入り口まで来れば入ってきますけど。民宿をやっていますが自家用車で来た人に、自分の居場所だけはっきりしてくれと言っているんです。そうすれば案内が電話でもできますけど。。

〔知事〕

国土交通省に言っておきますけれども、やっぱり地元の観光協会が一番いいかもしれんな。まとめて言うことですよ。それはそういうふうに行っているところというのはやっぱりよくなるんですよ。

〔参加者〕

知事が地元を訪れて観光振興に対して誠意を持っていただいたというのは初めてでございます。本当にありがとうございます。

知事が今回来るとということで会合を3回ぐらい開きました。その会合がとても良かったなど。やはり地元の意見というものが、そして県の管轄と地元が何をやるのかということをよく理解できました。やはり話し合いというものが非常に大切なんだと、話し合いを継続していくことが忍野の観光振興に役立つことだと私も今認識しています。

忍野村というのは、とにかく素晴らしい景観というのはご存知だと思いますけど、これ山梨県ならびに国としても貴重な景観、または環境と観光に重要な地点だと思います。しかし、例えばインターネットでこちを調べるには、「富士」という言葉で検索してくるわけです。「富士山」から検索してき

ますから、富士河口湖とか、忍野なんてほとんど入らない。その中で、「忍野」とか「河口湖」「山中湖」というものが別な観光地じゃなくて、ひとつの統括された観光地にしていくべきだと思うんですよ。

基本的に我々が京都に行っても、ほかの何かを見ても京都へ行って来たよとか言わないんです。河口湖に来て忍野八海を見たけど、忍野村の忍野八海に行ったとは言わないんですよ、河口湖に来たという。ですからこれは要するに河口湖とか忍野ではなくして、富士五湖というものを、今後、国内ならびに世界に売り込んでいくことが重要だと思うんですよ。

その一つとして、河口湖大橋、あれは非常に軽薄なものだと思うんですよ。これを日本の中の名橋、要するに石で作って要するに皇居じゃないけどあれに街灯を作る。そしてあれから富士山を臨む橋が、やはり世界の中でも美しい橋だというようなことで、是非地域をあげて観光の目玉の橋にしてもらいたいです。やはり文化遺産として富士山を今提言していますけど、公共施設が文化遺産のような建設方法になってないですね。近代化しているところもあるんですね。なるべく文化遺産に匹敵するような地域づくりを県が指導していただきたいと思います。

また、私たちが今一番困っていることがある。明治45年から民宿というものが始まったんですけど、当時の需要と今の需要は全く違うんです。テニスコートとかで相当急成長した時代がありますが、今のお客さんのニーズというのは全く違うんですね。今からは一個一個の宿がもう一回原点に戻って小さな宿になると。心をつぐような宿を推進していくと…。

〔知事〕

それは大事なことですね。

〔参加者〕

先ほども言っていたように、20何カ所以上の湧水があるんですよ。これは県の統括の中で、何カ所から湧いているのかということをもう一回調査してもらって、忍野村、また富士五湖観光の目玉にしていきたいなと。

〔知事〕

そうですね。もったいないよね、この湧水があるとすればね。

〔参加者〕

山中湖から来ている水じゃないんですよ。みんな湧いている水がここを流れているんですよ、ほとんどが。そして、富士五湖の中でも川が流れているのは忍野たけなんです。また、以前はカーター大統領にも来ていただいたり、先ほどの親子体験学習なんかも東京都知事をお願いをしました。

やはり新たなものを創っていくということ、それには、お互いに話し合いをしていくということが大事であり、いい村、いい町をつくるのが魅力ある観光に繋がるのではないかなと。是非知事にもご協力をお願いしたいと思います。

〔知事〕

私も新名庄川を初めて見た時に、いい川だなと思いましたね。まあ汚れていますけどね。非常に乱雑になっていますけど水量は多いし、まあ水も少し汚れているのかもしれないけど、しかし清流ですし、藻がぎーっと、きれいな藻が生えていて、結構水が早くてね、水流が。ああいい川だなと思いま

したね。この川はやっぱりきちっと復元整備をしていかんと、もったいないんじゃないかなという気がしますよね。

さっきの河口湖大橋なんかについても、土木の技術屋さんというのは土木工学で色々やるんですけども、私はその土木工学と同時に、土木美学を…。やっぱりああいう箱ものだとか、それからああいう橋だとか、道路とかを造る人は美学的な感覚、センスを持っていなきゃだめだと思うんですよね。

〔参加者〕

ヨーロッパを見習うと…

〔知事〕

ヨーロッパね。

〔参加者〕

イタリアとかフランス…

〔知事〕

やっぱりその場その場にふさわしい、もちろん機能はしっかりしていなければいけませんけど、地域地域の景観とか、そういうものにマッチしたものを造らないといかんですよね。

ほかにはいかがでしょうかね。その湧水というのは、しかし何かこれもったいないですね。これ調べちゃあるでしょうね。

〔参加者〕

大体は調べたんですけど、確実なものは県の河川地域ですから、どこからどのぐらい湧いているのか、調べたらすごいと思います。

〔参加者〕

新名庄川は全部湧水ですよ。それが20数カ所あるんですけど、確実な数字じゃないんですよ。それを是非県のほうで調査をしていただいて…。

〔知事〕

そうですね、きちっとして、やっぱりそれを保全して湧水公園的なものとしてきちっと保全整備すべきものだと思いますね。

〔参加者〕

それは新名庄川からだけでなくね、先ほど話にでた鷹丸尾の溶岩の末端に沿って湧水がね…。

〔知事〕

鷹丸尾の溶岩…

〔参加者〕

平安時代に溶岩が流れたところですよ。

〔参加者〕

溶岩流のちょうど境目から湧いているんですよ。

〔知事〕

鷹丸尾溶岩。なるほどなるほど。溶岩の流れ・・・

〔参加者〕

富士山から湧き出ている水温は大体12、3度。ビールを冷やすのにちょうどいい。だから夏は外気が温かいから冷たく感じる。冬は外気が冷たいから温かく感じる。水温はいつも一定しております。

〔参加者〕

昔の養魚場、幅が10メートルあるんですが、そこから湧いているんですよ。

〔知事〕

養魚場ね。

〔参加者〕

昔の県の養魚場。こんこんと毎日湧いているんですよ。忍野八海なんていうもんじゃないですよ。

〔参加者〕

忍野八海より、すてきだと思います。

〔知事〕

そう。それはもったいないもんだね。

〔参加者〕

是非県が整備してもらって回りを見せたほうが・・・、本当に。

〔知事〕

なるほど、養魚場の所ね。

〔参加者〕

私よく行くの、そこを見に。すごくきれいな。

〔参加者〕

ずっと下のほうから湧いていて、結構長いんですよ、距離が。お水もすごくきれいですよ。

〔参加者〕

そこに植物ですね。金魚草とか、そういうものが群生しているんですよ。

〔知事〕

そうですか。いや、もったいないことですよ。バナジウムイオンだから、糖尿病にいいと思いますしね、もったいないじゃないですか。(笑)

〔参加者〕

僕の言うことはちょっと夢みたいなことなんですが、西湖の根場(ねんば)がありますよね。ああいう茅葺きの家が10棟ぐらいあれば、忍野村も、もっとすてきな村になるんじゃないかなと思うんですよ。ただ造っただけだと人が集まりませんので、それを富士山とともに映画撮影などに使えば、人が集まるんじゃないかなと思うんですよ。そういった色々な企画を県のほうにしてもらって、忍野村をPRしてもらえばいいかなと思うんですよ。

また、モナコでF1を見たことがあるんですが、まさか忍野で市街地レースをやってくれとは頼めませんが、小さいカートか何かの市街地レースをやる企画も面白いんじゃないかなと思うんですよ。

〔知事〕

茅葺きは、もう忍野にはほとんどなくなっちゃったですか。

〔参加者〕

あるんです。

忍野村の中学校のところにトンネルがありまして、トンネルを出たところからの富士山が一番きれいなんですよ。そういう場所に10棟ぐらいの茅葺きの家ができれば、そしてまあそこで時代劇の撮影とか、そういうのが入ったりとかすれば忍野村のPRになると思うんです。ドラマなんかで結構聖地巡礼ってあって、そのドラマのロケで使われた場所に人が集まるんですよ。

〔知事〕

まあよく分かりますけども、そういう茅葺きの家を造って見たらどうかということとか、そういうカートのレースをやるというようなことは、やっぱり忍野の中の話なものですから、村がやることなんですよ。県がその支援する方法は色々あるんですよ、いろんな助成制度、補助制度みたいなものがあったりしましてね。あるんですけども、村が企画をしないと、そして村が実施主体になってやっていかないと、県が直接というわけにはいかないんですよ。まあ広域的に富士五湖地域全体について何かやるというような話になると、これはまあ県がということはあるんですけども、やっぱり一つの市町村の中の話になるとどうしても市町村が主体になっていかないといけないということだと思うんですよ。しかし、岡田紅陽の写真を見てみても、やっぱり昔の茅葺き屋根の所から撮った富士山とか、ああいうものは非常に、確かにスポットとして本当にいいですよ。それは確かに人気を博すんじゃないかという気はしますね。まあしかし、村がやってもらわないとね。

〔参加者〕

僕が言っているのは夢みたいな話なんですけど、そういうのがあると結構楽しいかなという…。

〔知事〕

余り夢でもないんじゃないですかね。まあ金は掛かりますけど、しかしできない話じゃないですね。

〔参加者〕

何か面白いことが…。過去の遺産などが、富士山とか、そういうものは大事にするのは当たり前なんですけど、新たな文化というものもつくる必要もあると思うんです。

話は変わるんですが、富士山というのはやっぱりありがたいもので、宿泊業やっていると、やっぱり日本全国から来るんですよ。特に年配の方が、富士山に手を合わせるんですよ。やっぱり日本と言ったら富士山なんですよ。海外に行った人が、太平洋路線なんかの人は宇都宮辺りで飛行機が旋回するんですが、その時、富士山が見えた時に、あっ日本に着いたなという。富士山というのはやっぱり大切なものなんだなというのが、まあ外人の人も来て、ああいう山は海外にはないからと。

〔知事〕

うんうん、確かにね。その通りですね。

〔参加者〕

県が中心になってもらって、要するに河口湖のいいものを忍野に教えていく、忍野のいいものを山中に教えていくようなことをやっていかないと、もうニーズが相当変わっちゃってますから。やっぱり横の流れを、連携を、もっともっと県が指導していてもらいたい。我々も一生懸命努力します。

〔知事〕

そうですね。連携交流ですね。それからPRは確かに忍野村だけでPRしてみても、なかなかだめなんですよ。来る人にとってみれば忍野村も山中湖村も関係ないですものね。

〔参加者〕

富士五湖観光地域がどこだと言うと、静岡と言う人もいますからね、全国の中では。

〔知事〕

だから海外なんかはましてや県の境なんか関係ないですよ。だから山梨、山梨なんて騒いだって、来るのはやっぱり富士山とその周辺に来るわけですよ。だからやっぱり観光PRとなると、余り個別の村単位だけでやってもしょうがないですよ。観光というのは正にそういうことで、一緒になってやるということですよ。

〔参加者〕

直接村の観光とは関係ないかもしれないんですけども、今甲府市になってしまいましたが、中道に考古博物館があるじゃないですか。そしてあそこに飾ってあるものって国中地域の物が多いわけですよ。忍野でも9, 200年前の住居址なんかが出ていますし、富士吉田でも都留市でも縄文早期からずっと遺跡があるんですよ。だからそういうものを考古博物館の郡内バージョンじゃないですけども、何かお考えいただけないかなという気がするんですけど。

〔知事〕

そうですか。あそこには余り展示がないですかね、考古博物館。

〔参加者〕

考古博物館は国中の物がほとんどですね。

〔知事〕

そうですか。それはいかんですね。

〔参加者〕

県立博物館には、忍野で出た平安時代の皿が一点展示されています。ですから考古博物館と博物館のちょうど折衷型みたいなのもいいですけども、郡内版の、この地域の物が分かるようなそういう施設があればいいなと思うんですけども。

〔知事〕

まあ博物館みたいなものをまた一つ造るとするのはなかなか大変ですね。なかなか箱ものというのは難しいですよ。まあしかし、考古博物館も展示を常に考えて、そういう新しいもの、新しい発掘されたものとか、そういうものを常に入れていかなければいけませんよね、展示しなければいけませんね。よく考古博物館に言っておきますよ。

〔参加者〕

考古博物館で、その年にというか、前年に発掘されたものを春先に展示するんですよ。そういう時には、一時的に飾られますけれども、常設にはなりませんよね。そうすると普段、例えば遠足なんかで行った小学生なんかは考古博物館で見ても、見るのはみんな国中の物なんですよ。そうするとやっぱり忍野の、例えば忍野の子にしてみると、忍野って何もなくて、昔は人が住んでなかったのかなという感じに捉えるんですよ。

〔知事〕

そんなことはないでしょう。

〔参加者〕

鳥居地の近くに、忍野村の9、200年前の縄文時代の遺跡があって、それからその上に平安時代のものがあつたんですよ。何を言うかと言いますと、そのところの回りは湖だったと言われていますが、実は山中湖村ではなくて、忍野村のそこが古代の湖じゃないかというような僕なんか推測しているんですよ。それで吉田に行って、御坂を越えて国中に行くというルートが、古代の道があつたろうということが言われているんですが、そういうことを県として、まあ忍野村だけじゃなくて、吉田とかと合同で、そういう古代の道を探ろうというようなことを…。それも一つの大きな観光の資源になっていくと思いますし、ちょっと歴史でもう少し検討して、何かまとめ出してもらえよう、何かそういう企画をお考えいただければと思います。

〔知事〕

そうですね、確かに。まあ古代のメインルートだったわけですからね、甲斐の国に入る。それは本当にその通りですね。

〔参加者〕

では、また知事、要望書としてまとめて…。(笑)

〔司会〕

それでは大分予定した時間を経過しておりますけれども、知事から感想を含めまして締めあいさつをお願いします。

〔知事〕

どうも皆さん、ありがとうございました。いろんな貴重なご意見を聞かせていただきまして本当にありがとうございました。皆さん方が本当にご熱心に忍野村を愛して、この地域の観光振興とか、あるいは住みやすい地域づくりのために一生懸命努力しておられる、そういうことがよく分かりましてね、本当に嬉しく、また心強く思っております。是非そういうこの意欲というものを一人ひとりではなくて、会長さんがおっしゃったようにまとめて、一つの力として、一つの大きなこの流れとしてつくっていかれるということが大事だと思いますね。県のほうにもご要望いただければ、できるだけことはしたいというふうに思っております。今日は本当に皆さんありがとうございました。これからもがんばってください。

〔司会〕

どうもありがとうございました。

以上をもちまして『ひざづめ談議』を終了させていただきます。